

甘いものを食べる。 それが一番よい。

二〇〇三年二月四日 第一稿 黒澤世莉

ハジメ 女 22歳 SE。フミエの姉。

フミエ 女 21歳 大学生。休学中。ハジメの妹。

ハルオ 男 21歳 アルバイト、ウェブデザイナー。

ハジメとフミエの幼馴染。

時代 21世紀になつてすぐ。

時間 8月。午後。ハジメとフミエの母が亡くなってから数日後。

場所 日本。東京郊外。喫茶店。ハジメの家の近所。

ハジメ、入場。注文し、時間を確認する。
しばらくして、ハルオ、入場。

ハジ ハルちゃん。太ったわね

ハル ご挨拶だなあ。ひさしぶり。元気？

ハジ うん。ハルちゃんは？

ハル まあ、いつも通りかな

ハジ 引きこもってるんだ。なんか、変なかんじ

ハル なにが。変わってないと思うけど

ハジ 三年ぶりなのに、よく知ってるから

ハル そうだね。コーヒーください。

ハジ いつもお世話になつております。納期を守るウェブデザイナーとして社内での評価もうなぎのぼりですよ

ハル おかげさまで北海道の片田舎でもお金がただけて恐縮です

ハジ 便利な世の中よね

ハル うん

ハジ フミちゃんは？ 一緒じゃないの？

ハル うん。すぐ来ると思うよ

ハジ そうか。あいかわらずね

ハル うん。ギリギリまでぐずってた

ハジ わかってるわよそんなこと

ハル うん

ハジ なにか、言った？ あれについて

ハル いや。なにも

ハジ そう

ハル でも。たぶん。気づいてると思う

ハジ そうかしら？ そんなに勘がはたらくようになった？

ハル だって、わざわざ東京まで呼び出されたら、なにかあるって思う

でしょ

ハジ それはそうだ。ごめんね、お守りさせちゃって

ハル かつぽれかつぽれ。暇だし

ハジ バカ、まだ言ってる。かつぽれかつぽれ、って

ハル これハジメちゃんが言いはじめたんだよ

ハジ そうだっけ？

ハル そうだよ。二年生の夏休みするとき。海水浴に行つてき。ハジメち

やんとフミちゃんが迷子になっちゃつてき。そのときにぼくが見つつけてき。ハ

ジメちゃんが言つてたよ、そのときはじめて

ハジ すごい記憶力

ハル ハジメちゃんが忘れっぽいんだよ

ハジ 言うね、ハルちゃん、ヒッキーのくせに。前向きなのよ、わたし

は、いつも

ハル 関係ないよ、それ

ハジ あるのよ。過去を振り返らないの。都合の悪いことはぜんぶ忘れるようにしているの。そのほうが楽しいでしょう？

ハル そうだね
ハジ ハルちゃんは来てくれるの？ 式に。ハルパパは？
ハル うん。ハジメちゃんさえよければ、二人で行くよ
ハジ じゃあ、ハルちゃんだけ呼ぼうかな
ハル そうか
ハジ うそよ、二人で来てよ。よかった。うれしい
ハル かつぽれかつぽれ
ハジ まだ言ってる
ハル そんなにおかしいかな
ハジ おかしいよ。他の人にも言うの、それ？
ハル 言うもなにも、他人と接触しないからね。普段は
ハジ そんなことないでしょう
ハル ここ三ヶ月、親父とフミちゃんとコンビニの店員以外に会ってないもん
ハジ 気持ち悪い。だめよ。それじゃ
ハル そうかな
ハジ そうよ。いつしよに住もうか？ こつちで
ハル そうだね。考えておくよ
ハジ フミちゃんとハルちゃんが来たら、私も楽しいし。そうよ、そう
ハル しましように、ね
ハル うん。あらためて、おめでとうございます。ご結婚
ハジ ありがとう
ハル もうそういう歳なんだね、ぼくたち
ハジ そうね。東京では早いほうだけど、同級生はけっこう結婚してる
ハル でしょう？
ハル そうみたいだね
ハジ ハルちゃんは？
ハル 結婚どころか、彼女もないからね
ハジ お見合いとかは？
ハル 職業がアルバイトでお見合いする人はいないよ

ハジ 結婚したいとは思う？

ハル そりゃあ思うけど、ずっと先の話だね。ぜんぜんイメージわかないよ。ハジメちゃんの結婚だって、あまり現実味がないもの

ハジ それはそうね。正直な話、私も自分が人妻になるなんて、まったく想像できないもの

ハル それは、まずいでしょ。もうすぐなんだから

ハジ そうはいつでもね。なかなか

ハル でも、人妻っていう響きは、そそのものがあるよね

ハジ え、ハルちゃんロリコンなの？

ハル わかってないな、ハジメちゃん。幼な妻はぼくの一番好きなジャンルだよ

ハジ わたし、幼な妻？

ハル いや、ハジメちゃんがどうこうってわけじゃないんだけど

ハジ それはわたしなぞはもう若くないということ？

ハル まあ、そう

ハジ あなた失礼よ

ハル 幼な妻ですって言われて嬉しい？

ハジ いやね。でも老け妻なんて言われたくないわよ

ハル 言つてないって

ハジ あれ、言つてない？

ハル ぼくが言いたいことは、ぼくはロリコンだけでも人妻という分野にもやはり魅力はあると言いたいのです

ハジ 私がセクシーだということね

ハル あー、ええ、まあ

ハジ 困らないでよ

ハル ごめん

ハジ だからわたしに振られたのよ

ハル いいよ。生身の女になんて興味ないもの

ハジ 病気ね

ハル 絶対にぼくのほうがマシだよ。恋愛に振り回されて人生おくつて

る人より

ハジ それ、わたし？

ハル 一般論さ

ハジ 負け惜しみに聞こえますけどね、ヒッキーさん

ハル 本気だよ。恋愛中心の生活って気持悪いと思わない？

ハジ 童貞が何を言ったって説得力なんかないわ

ハル フミちゃん遅いね。ちよつと見てこようか（席を立つ）

ハジ 座ってなさいよ。そのうち来るわ

ハル 時間ないんでしょ？

ハジ ハルちゃんが見にいったって、フミちゃんが早く来るわけじゃないもの

フミエ、入場

ハジ フミちゃん、ひさしぶり、元気だった？

フミ ちつとも

ハジ 元気じゃないのかよ

フミ おくれてゴメン

ハジ ちつとも変わらないわね、時間にルーズなところ

フミ すみませんね

ハジ 太った？

フミ 三年ぶりに会ってそれかよ

ハジ やっぱり太ったんだ

フミ あなたよりマシよ

ハジ 心配してたのよ、ちゃんと食べてるかどうか

フミ おかげさまで私の食欲は誰にも止められないわ

ハジ そうよね、フミちゃんストレスが過食にいくものね

フミ お姉ちゃんのほうが私の倍は食べるじゃない

ハジ いいのよ、女は少しふくよかな方が魅力的なの。ね？

ハル ぼくはやせてる方が好き

ハジ いやね、照れちゃって
フミ 本音だろ
ハジ フミちゃん自己中ねえ
フミ あんたに言われたくないわよ
ハル 二人とも魅力的だと思えますよ
フミ よけいに傷つくわね
ハジ 素直に喜んだ方がいいわよ
フミ どうせ私は素直じゃありませんよ
ハジ ロリコンに好かれなくなっただっていいじゃない
フミ どっちだよ
ハル 二人とも魅力的だよ
ハジ もっと心をこめて言いなさい
フミ 強制するなよ
ハル 二人とも魅力的だよ
フミ もういいよ
ハル 二人とも魅力的だよ
ハジ もう一息
ハル 二人とも魅力的だよ
ハジ このへんが限界ね
フミ しつこいって
ハジ ハルちゃん、よくがんばったわ
ハル 誉められてる気はしないね
フミ バカにしてるのよ
ハル そうだったの？
フミ そうまつすぐ聞かれると、答えづらいわね
ハジ まあいいじゃないどっちだって。わざわざ獣道をかきわけて来てくれてありがとうね
フミ じゃあなたは獣道で生まれ育ったってことね
ハジ なにか飲む？
フミ うん。なにか冷たいもの。東京は暑いね

ハジ すいません、アイステイキーください。そりやそうよ、南国だもの
フミ 北海道に比べれば、日本全国南国だものね
ハジ じめじめしてるでしょ、こつちは。ラベンダーはもう終わっちゃ
った？
フミ まだ咲いてるよ。いい匂い。すこしもつてくればよかったね
ハジ そうか。お母さんラベンダー見られた？
フミ ううん、そのころにはもう、なにもわからなくなっちゃってたか
ら
ハジ ラベンダー好きだったのにな。お葬式いけなくってゴメンね
フミ もういいわよ
ハジ 本当に行きたかったんだけど、あの日金八先生の再放送があつて
さ
フミ ビデオにとつとけよ
ハジ 最終回だったんだもん
フミ 理由になつてないわよ
ハジ 生で見たいじゃない？
ハル なるほどな
フミ なるほどじゃないわよ。再放送じゃない。ていうかドラマは生じ
やないじゃない
ハジ 本当は仕事がどうしても忙しくつてさ、東京を離れられなかった
んだ
フミ わかつてるわよ
ハジ 一人で大変だったでしょ
フミ 別に。ハルオにもお礼言っておいてよね、ずいぶん助けてもらつ
たから。あと、ハルパパにも
ハジ うん。お金は平気？
フミ ハルパパから少し借りたから、それだけお願い
ハジ わかったわ。心配しないで
フミ してないわ
ハジ ちよつとは心配してよ

フミ それだけ働けばお金くらいあるんでしょ

ハジ まあ、その気になればハワイを買い取れるくらいのお金はあるわ

ね

フミ うそ

ハル うそだよ

ハジ フミちゃん、バカね、あいかわらず。安心しちゃった

フミ 超ムカツクわね、お姉ちゃんは、あいかわらず。後悔しちゃった

ハジ そう？

フミ 来なければよかった

ハル でもディズニールンドに行けるよ

フミ それは、嬉しいけどさ

ハジ いつ行くの？

ハル 決めていないけど、そのうちに

ハジ わたしなんて、あなたたちと一緒に行って以来行っていないわ。

せいぜい楽しんでくるがいいわ

ハル 確かに、東京に住んでいるからって、あまり行かないだろうね、
そういうところには

フミ あたりまえじゃない。母親の葬式にも顔も出せないんだから

ハジ あいたたた

ハル やめなよ、フミちゃん

ハジ かわりに結婚式なんてどうかしら

フミ なに、結婚するの、お姉ちゃん

ハジ うん

フミ ヘー、誰と？

ハジ ミッキーマウス

フミ ふーん。新居はディズニージー？

ハジ ううん、あのへんは高いから、習志野か船橋のあたりに

ハル リアルだね

フミ よかったね、お金もってるんでしょ、あのねずみ

ハジ それが違うのよ。著作権使用料はぜんぶディズニーが取っ払っち

やうから、彼はランドで踊ったり映画に出たりの出演料しかもらえないの
ハル 意外とつましいんだね
フミ ねずみだからね
ハジ 彼のことをねずみつて言わないでよ
フミ ねずみじゃない。ねずみ男と言うべき？
ハジ ぬりかべのほうがいいわよ
フミ あんなの壁じゃない、ぬらりひよんのほうがイケてるわ
ハジ あんなじじいのどこがいいのよ
ハル 話がずれてるよ
ハジ ありがとう。つまり、結婚するのよ
フミ ねずみ男と？
ハジ 違う。本物の人間と
フミ 本当に？ 信じられない。どこまで冗談なの
ハジ バカじゃないのあなた、ミッキーマウスと結婚できるわけじゃないじやない、それくらいわかりなさいよ
フミ 本当に結婚するんだ。びつくりした。おめでとう
ハジ ありがとう
フミ なんて教えてくれなかったのよ
ハジ 言ったじゃない
フミ いつ
ハジ いま
フミ なんでいまなのよ
ハジ いまいましたって？ わたしって面白いわね
ハル 顔を見て話したかったんじゃないのかな
フミ ハルオは知っていたの？
ハル 仕事のメールをやりとりしているときに聞いた。でも、ぼくには顔を見て話したいってこともないだろうし
フミ そう。別にどうでもいいんだけど
ハジ 式は十月に挙げようかと思うんだ
フミ そこまで決まってるの？

ハジ うん。もう予約した

フミ そうなんだ、早いね

ハジ お母さんにも来て欲しかったんだけど

フミ そうか。うん。そうだね。私は行くよ

ハジ あたりまえじゃない

フミ なんでよ、本当は行きたくないけど、新婦側の出席者が誰もいな

いんじや可哀想だから仕方なく行くんだからね

ハジ いいわよ、フミちゃん欠席でも。かわりにハルちゃん連れて行くから。妹だつて言つて

ハル ええ、ぼくが？

フミ 無理があるわよそれは

ハル やるならがんばるよ

ハジ 本気？

フミ いいわよ、私が行くから

ハル そうか、残念だな

フミ やりたかったの？

ハジ わかった、私がハルちゃんと変わればいいのか

フミ 意味わからないから、それ

ハル じゃぼくとハジメちゃんが結婚すればいい？

ハジ それはないから

ハル そうか

ハジ そんなにがっかりしないでよ

ハル がっかりなどしていかないよ

フミ どんな人なの？

ハジ わたしは、明るくて元気な美人ビジネスマン、かな。自分で美人つて言い過ぎ？ 嫌味？

フミ ていうよりもあんたの自己紹介聞いているわけじゃないのよ

ハジ 違うの？

フミ あんたのだんなよ

ハジ もっとわかりやすく聞いてよね。ハルオちゃんだつてわからない

つて顔してるわよ

ハル わかったよ、ぼく

ハジ キジマヨシタカさん

フミ 終わり？

ハジ 何が聞きたいのよ

フミ 名前以外に特徴ないの、そのヨシタカさんは

ハジ 失礼ね、人のだんなを捕まえて

フミ 歳は

ハジ 二八歳

フミ 職業

ハジ システムエンジニア

フミ あなたの同僚？

ハジ 取引先で知り合ったの

フミ なるほどね、性格は？

ハジ なんか、取り調べうけてるみたいね。すみませんカツ井ひとつ

フミ 黙ってなさいよ。すみません、いまのなしです。性格は

ハジ やさしくて、たよりになって、私のことを愛しているのよ。いや

だ恥ずかしい

フミ 来るんじゃないかった

ハジ やだ、どうしちゃったの

フミ わざわざ半日かけて東京まで出てきてこんなおのろけ話を聞かき

れるとは思わなかった

ハジ こら、ひとの幸せを素直に喜べないのは心がゆがんでいる証拠だ

ぞ

フミ わたしゆがんでいますから

ハル ハジメちゃん、もつとまじめに話したほうがいいと思うよ

ハジ わたし十分まじめなつもりなんだけどなあ

フミ 存在自体が冗談みたいなものなのよね

ハジ 喋り方が可愛すぎたっていうことかしら？

フミ キモイよ、お姉ちゃん

ハジ 言ったなあ。じゃ、フミちゃんも東京に来ようか
フミ なに言ってるの？
ハル ハジメちゃん、意味がわからないよ、それじゃ
フミ いいわよね、東京。わたしあそこに住んでみたい。お台場
ハジ 残念だけど、私たちこの近所に住んでるのよね
フミ じゃあ一緒に引っ越そうよ
ハジ 住むには不便よ、あそこは。デイズニーランドに住むようなもの
よ。スーパもないし定食屋さんもないし
フミ いやよ、こんなところに住んだら美瑛と大して変わらない
もの
ハジ そんなことないわ。新宿まで三〇分で行けるし、下北沢だって近
いのよ。知ってる、下北沢
フミ バカにしないでよ、知ってるわよ
ハジ 可愛いお店がいっぱいあるんだから。カフェとかレストランもお
洒落なところ多いしねえ。隣の町田だってなかなか悪くないわよ
フミ お姉ちゃん、本気なの？
ハジ 私がいつ冗談を言ったのよ
フミ いや、いつつもだよ
ハジ 百歩譲っていつつも冗談ばかりだとしても、これは本気
フミ いや。絶対いやよ東京に来るなんて
ハジ どうして？
フミ だって、大学だってあるし
ハジ あなた大学に行っていないでしょ
フミ ハルオ、あんた余計なことお姉ちゃんに言ったでしょ
ハル ごめん
ハジ ハルちゃんに当たるのはやめなさいよ。あなたのこと心配してく
れてるんだから
フミ 心配ね、それはありがたいことで
ハジ そうよ、あなた一人じゃ寂しくて死んじゃうわよ。愛する美人の
お姉さまと暮らした方が一〇〇倍幸せになれるわ。わたしも本当だったらヨシ

タカと二人つきりでラブラブ愛の巢におこもりしたいんだけど、哀れな妹のためには一肌脱がないとね。ヨシタカってば料理も上手いのよ、この間は若鶏のマレンゴ風って言うのつくって、そりゃあほつぺた落つこちて爆発するくらい美味しかったんだから。今日も家でフミちゃんのために腕を振るってるのよ

フミ 食べません

ハジ おなかこわしてるの？

フミ 冗談は顔だけにしてください

ハジ 私の顔が冗談だったらフミちゃんなんてカエルの胃袋よ

フミ 愛の巢のお世話になるほど困っていません

ハジ あら、カエルなだけに、お金はどこから出てるのかわかってないみたいね

フミ お金のお話を出すのはずるいよ

ハジ これがリアルな生活なのよね

フミ 大丈夫よ、ハルオもハルパパもいるから

ハジ いつまでもお世話になるわけには行かないでしょう。それともハルちゃんにでも嫁入りする？

フミ そのほうが千倍マシね

ハル ぼく立場ないね

フミ あ、ごめん、つい本音が

ハジ あーあ、ハルちゃん傷ついちゃった。こうなったら北海道を出て一緒に住みましょうね

フミ お母さんが死んだからって、あの家は残すんだからね

ハジ 強情なところも可愛いぞ

フミ そうです。わたしは可愛いです

ハジ フミちゃん、気持はよくわかるわ

フミ わかってない、お姉ちゃん昔から私のことなんかぜんぜんわかってない、だいたいそんな話したいんだったら自分から帰って来ればよかったじゃない、わざわざ私を呼び出すなんて

ハジ 私の素晴らしい世界一の旦那さんに会ってもらいたかったのよ、こっちに来たら一緒に住むことになるんだし。つまりみせびらかしたい？

ハル ヨシタカさんは了解してるの、フミちゃんのこと

ハジ うん。あの人最高の旦那だからね。そういえば少しハルちゃんに似てるかも

ハル かつぽれかつぽれ

フミ かつぽれじゃない。ヨシタカさんと一緒に来たらよかつたじゃない、美瑛まで

ハジ わたし母さんの葬式に帰れないくらい忙しいのよ。二人いっぺんになんていつになるかわからないわ

フミ お葬式に来なかつたのはお姉ちゃんの気持の問題でしょ

ハジ あれ、バレてた？

フミ そんなこと蒸し返したくないから、もういいんだけどさ。だいたい、今の今まで結婚のこと隠していたのが気に入らないのよ

ハジ バカね、はじめっからフミちゃんに、ああフミちゃん、この日婚約者紹介して東京に来るように説得するから、まあよろしく、って言ったら絶対来なかつたでしょ

フミ 絶対来なかつたわよ、お姉ちゃんの顔だつて見たくないんだもの

ハジ フミちゃん言いすぎだよ。ハジメちゃんだつてふざけすぎてるけど、がんばつてフミちゃんとお母さんの生活助けてたんだから

フミ それは、感謝してるけど

ハジ いいのよ、ハルちゃん。ありがとうね。でも私もお母さんを看取れなかつたことは、けっこうつらかつたんだよ

フミ 本当に？

ハジ 疑うかなあ、そこ

フミ それはそうだよ。ごめん。言い過ぎた

ハジ いいのよ、何を言つても言い訳なもの
フミ そんなこと言わないでよ。そんなふうに思つてないから。でもハ

ツキリさせておくけど、これだけは。東京には絶対行かない

ハジ フミちゃんがいやなことは知ってるの。でも来てもらうわ

フミ どうしてよ

ハジ 召使の必要性かな

ハル　フミちゃん一人にしておく心配なんだって

フミ　それはないわよ。いままで母さんとわたしを放っておいて、いまさら

ハジ　じゃあ、わたしが働かないでどうやって生きていくつもりだったのよ

フミ　北海道でだって働けたじゃない

ハジ　システムの仕事なんて美瑛にないわよ。それとも事務でもやって、手取り十万円であなたちを養えって言うの？

フミ　お母さんはお姉ちゃんと一緒に暮らしたかったのよ、ずっと

ハジ　わかつてるわ

フミ　わかつてないわよ。お母さん私のことずっとハジメって呼んでたのよ、ハジメごめんね、いつもすまないねって。あんなことしたのに、お母さん悪いお母さんだねって。具合のいいときは、わたしがフミエだってわかつてたみたいだけど。普段はずっとハジメ、ハジメ、ハジメ。ご飯のときもトイレのときもお風呂のときも

ハジ　それは

ハル　フミちゃん、それはハジメちゃんが可哀想だよ

フミ　わかつてるわよ。でもわたしだって可哀想じゃない。お母さんの面倒を見ていたのはずっとわたしたなのに、どうしてハジメって呼ばれなくちゃいけなかったの？ 私はフミエよ、ハジメじゃないわ。どうして？ どうしてお母さんを許してあげなかったのよ

ハジ　フミちゃん、ケーキ食べる？

フミ　いらないわよ

ハジ　私は食べるわよ。ハルちゃんはなにがいい？

ハル　じゃあ、チーズケーキ

ハジ　わたしラズベリーのケーキにするから、ガトーショコラ食べなよ、フミちゃん

フミ　いらないって言ってるじゃない

ハジ　心の声は食べたといっているわよ

フミ　じゃあ食べるわよ。チョコでもモンブランでも持ってきてくればいい

でしょ

ハジ すいませーん、チーズケーキとガトーショコラとモンブランとラズベリーケーキ下さい

フミ どうせ甘いもの食べたら機嫌直りますからね、わたし

ハジ あれ、魂胆みえみえ？

ハル わからなかったら残念な子だよ

ハジ フミちゃんも大人になったのね。それならコンクリートジャンクル・トーキョーでもサバイバルできるわ

フミ わたしを東京に呼んで、家はどうするつもりなの。住む人がいなくなったら、痛むのが早いわよ

ハジ いいんじゃない、痛んでも

フミ 放っておくわけにはいかないでしょう

ハジ 放っておきはしないわよ

フミ 人に貸すつもり？

ハジ あんなボロイ家、誰も借りないわ

フミ まさか売るわけじゃないでしょう

ハジ そう。そのまさか

フミ バカ。東京に来るのもいやだけど、あの家を売るなんて信じられない

ハジ じゃあ、人に貸す？

フミ それだってダメよ

ハジ だいたい借り手がいないでしょうね。ていうより、わたしあの家キライなのよ

フミ 帰るわ

ハル 待ってよ

フミエ、退場

ハジ いいわ。行かなくても。帰ってくるわよ

ハル でも

ハジ　大丈夫よ。頭冷やして帰ってくるわ。つていうか暑いからのぼせて帰ってくるというべき？

ハル　そうか。ハジメちゃん、もつとうまく話したほうがいいよ

ハジ　そういう小細工ダメなのよわたし。仕事で疲れちゃってるから

ハル　あんな言い方するより、ちゃんと話したほうがいいよ

ハジ　ちゃんと話してるじゃない

ハル　ちゃんと話すつて言うのは、ちゃんと思ってることを伝えることを言うんだよ

ハジ　ちゃんと伝えるためにあなたを呼んだんじゃない

ハル　まあ、そうなんだろうけど

ハジ　面倒くさいところは、おまかせしました

ハル　それはいいんだけど、帰って来るかな

ハジ　大丈夫だつて。ケーキ食べてよ

ハル　うん。いただきます

ハジ　ありがとうね、ハルちゃん。ぶつちやけて言つて、ハルちゃんがいなかったら絶対に話せなかったわよ。そもそも東京にあの子来なかっただろうし

ハル　そうかなあ

ハジ　お世話になりつばなしだよね、昔から

ハル　親父のこともあるからね

ハジ　それ、ハルちゃんには関係ないじゃない

ハル　息子だからね。関係ないことないし

ハジ　違うわ。それはハルパパとわたしたちの問題よ。ハルちゃんが責任感することないわ。もつとも、ハルちゃんを利用してわたしが言えた義理じゃないけど

ハル　ははは。フミちゃんにもそういう風に喋ればいいのよね

ハジ　わたしたちは、あれでいいのよ

ハル　そうだね。ぼくも二人がそろつてるのを見られてよかった

ハジ　ありがとう

ハル　東京に来られてよかったしね

ハジ そんなわけないじゃない、あなたが東京に来たいなんてことないでしょう

ハル 秋葉原でいろいろ買い物するんだ

ハジ うわー、もつと行くべきところあるんじゃないの、青山とか代官山とか

ハル そういうところに興味がないこと知ってて言うんだもんなあ、人が悪いよ

ハジ 自分でもそう思う。わたし悪い女よね

ハル 自覚してるんだね

ハジ 自覚してなかったらただのバカじゃない。ただのバカだと思ってるわけ？

ハル 切られても困るよ

ハジ いや、バカだっただんだけどき、昔は。これでも成長したと思うんだけどなあ

ハル うん。変わったよ。うん。変わった

ハジ よくなった？

ハル うん。いい女になった

ハジ オタクに言われても嬉しくないわね

ハル 言うんじゃないよ

ハジ ハルちゃんも彼女つくらないと。そうだ、東京で作りなよ。合コンやる、合コン？

ハル 遠距離しろってこと？

ハジ それで東京に出てくればいいじゃない。フミちゃんと一緒に住みなさいよ。ケンカしたときに中に入ってもらったり、夜中コンビニに行ってもらったり、便利だわ

ハル それパシリじゃない

ハジ そういえば、合コンとかってしたことある？

ハル いいよ、チャットでがんばるから

ハジ チャットで彼女つくるってこと？ 無理無理

ハル 少なくとも、直接あつて話すより話しやすいでしょ

ハジ　痛いなあ。痛いほどひきこもりよね。ハルパパはそれでなにも言わないの？

ハル　別に、仕事さえしていれば何も言わないね

ハジ　ハルパパにしてハルオあり、って感じよね。ハルパパは家のこと、なんだって？

ハル　うん、フラワーランドの職員の人家が家を欲しがっているみたいだから、その人なんかどうかって

ハジ　ほんとうに、ハルオとハルパパにはお世話になりっぱなしね

ハル　それ、皮肉？

ハジ　半分はね

フミエ、入場

ハジ　おかえり

フミ　外暑くって、のど渴いちゃった。すみません、お水下さい。ごめん。大人気なかった

ハジ　いいのよ。帰ってきてくれてありがとうね

フミ　わたしも、お姉ちゃんの気持ちわかってるつもりだった。お葬式に来ないのも、わたしは許せないけど、お姉ちゃんの気持はわかるよ。借金を返さないといけないことだっかわかってるし、病院にだっってお金を払わないといけないし、私の大学のお金もどうにかしないといけないことはわかってるわ。でも、できればあの家に住んでいたいし、あの家を手放すなんて、つらい

ハジ　そうよね

フミ　お姉ちゃん、なんでお葬式に帰ってこなかったの？お姉ちゃんが来てくれば、もつというろんなことを話せたのに。お姉ちゃんはお母さんの子供なんだから、お母さんだっってお姉ちゃんに来て欲しかったと思うよ

ハジ　あなたもお母さんの子じゃない

フミ　お母さんにとってはお姉ちゃんが本当の子供なんだよ。そんなにあの家が嫌いな？お母さんが許せないの？

ハジ　もうお母さんが嫌いだなんて思っってない。でもあの家に帰るのは

つらいわね。できればもう二度と見たくもないわ

フミ　　そうか。お母さん、いつつも、ハジメ、ごめんねって。弱いお母さんでごめんねって。せめて最後に許してあげて欲しかった

ハル　　ぼく、席はずそうか

ハジ　　いいわよ、いてもらって

フミ　　はずしなかったらはずしてもいいけど

ハル　　どうしよう

ハジ　　もうどうだっていいのよ、お母さんのことは

フミ　　お姉ちゃん、本当にわたしと暮らしたいの？

ハジ　　いやなのよ、本当は。でも仕方がないじゃない？　あなた一人で生きていけるわけもないんだから

フミ　　働いて、自立するわよ

ハジ　　簡単に言うのね

フミ　　簡単じゃないことくらいわかってるわよ

ハジ　　フミちゃんなんで大学に行ったのよ。医学部に行きたいって聞かなかったのはあなたでしょう？

フミ　　勉強はしたいわよ。でも家が売られちゃうよりはマシでしょ

ハジ　　わたしが汗水たらして払ったお金は無駄になるってことか

フミ　　奨学金もらってるわ

ハジ　　大学にいけないで餓死しましたじゃギャグにもならないでしょ

フミ　　そりゃ、お姉ちゃんのおかげで大学にいけないのは感謝してるけどでしょ？　こないとお姉ちゃんいないわよこの銀河系には。だ

ハジ　　いたい、旭川は遠すぎたのよ。東京の医学部に行けば、通学も楽だしね。転学できるわよね？

フミ　　お姉ちゃん、わたしのことなんにもわかってないよ

ハジ　　バカね、あなたのことなんて右頬から左耳くらいまでお見通しよ
ハル　　それあんまり見通せてないよ

フミ　　本当のわたしのこと知っても、一緒に住みたいって言ってくれ
ハジ　　る？

ハジ　　もったいぶるほどの裏面があるの、あなたに

フミ あつたらどうするの

ハジ まず聞かせてよ。それから考えるわ

フミ ハルパパと寝たのはお母さんだけじゃないのよ。私も。お姉ちゃんが入院している間、何度も何度も何度も何度も

ハジメ、フミエをひっぱたく。

ハジ 知ってたわ

フミ え？

ハジ だから右足首から右ひざまでお見通しだつて言ってるじゃない。そんなこと、いちいち言われなくなつて知ってたわよ。あんたわたしをタダのバカだと思ってるでしょ。わたしはね、美人で悪いバカ女なのよ。それくらい知ってたのよ。知っていて、あなたが一番傷つく方法を選んだのよ。お母さんだけを責めれば、あなたが一番傷つくのを知ってたのよ

フミ ウソよ

ハジ 好きなように思えばいいでしょう。強がりかもしれないわね、でも知っていたかもしれないわよ

フミ ハルオが教えたの？

ハジ ハルちゃんは関係ないわ。いつも被害者でこそあれ、私たちに都合の悪いことなんて一言も言っていないの

ハル そんなこともないけど

ハジ あの家は売るわよ。それで病院ともハルパパとも、北海道にある全てのものから縁を切つて東京で暮らすの。それがわたしのスタートだし、北海道にわたしのものが残っている限りいつまでもひきずっているものが消せないのよ

フミ 家を売っぱらつたつて消えないわよ、お姉ちゃんがあの家で生まれて、お父さんが死んで、私が生まれて、ハルパパがいて、ハルオがいて、ごはんを食べて、寝て、お母さんが死んで、そういう事実を消せっこないじゃない

ハジ 消したいものは事実じゃないわ、痕跡よ

フミ　お姉ちゃんが本当に過去を乗り越えたいのなら、残した方がいいのよ

ハジ　乗り越えたくもないのよバカね、わたしはそういう一切から尻尾を巻いて逃げ出すの

フミ　それはお姉ちゃんの都合でしょ

ハジ　あの家はわたしのものでもあるのよ

フミ　わたしのものでもあるのよ。わたしはわたしたちの思い出を無かつたことにしたくないの

ハジ　フミちゃんわたしと同じことを言っているのよ。わたしは意地でも消したい、フミちゃんは意地でも残したい。理由は一緒よ

フミ　わたしは働いてでも売らせないから

ハジ　なんと言おうと売るから。好意で東京に来て言ってるけど、あなたなんか、来たって来なくてどちらでもいいのよ。もし来たいなら勝手に来ればいいし、来たくないなら北海道で死ぬまでよろしくおやりなさい。ただし、あなたが大学に行っている間にわたしが払った生活費をぜんぶ無駄にするんだからね、何年かかっても返しなさいよ、そのお金は

ハジメ、伝票を持ち立ち上がり、会計を済ませる。退場

フミ　バカハジメ

ハル　大丈夫？

フミ　なれてるからね。三年ぶりにケンカした

ハル　そうか

フミ　ハルオ。あなたの目から見て、ハルパパって魅力的？

ハル　ぜんぜん。ただの無口なひげのおっさんだけど

フミ　そうよね。私もそう思うわ

ハル　なんで？

フミ　なんでもないわ。ごめんね、姉妹げんかに巻き込んで

ハル　かつぱれ。もう一五年も巻き込まれつづけてるからね

フミ　ハルオが一番割に合わないわよね。お姉ちゃんには振られるし、

パパの尻拭いはさせられるし

ハル　もうあきらめたよ。ぼくはそういう星の下に生まれているんだ

フミ　その覚悟、見習いたいわね

ハル　いや、根が暗いだけだから

フミ　ねえ。暗いわよね。私の人生の中で最も暗い人間よ、ハルオ

ハル　いちいち言葉にしなくたっていいじゃない

フミ　姉妹そろって余計なことばかり言うのよね

ハル　言うばかりじゃないけどね

フミ　そう、余計なこともする

ハル　今日はもう余計なことしないほうがいいよ

フミ　したおしたわよ。おとなしくお姉ちゃんの家に行くわ

ハル　気持ち悪いくらい素直だね

フミ　悔しいけど、お姉ちゃんにはいまだに敵わないのよね。ハルパパ

だって、結局一番好きだったのはお姉ちゃんだし、ハルオだってお姉ちゃんに惚れたくせに私にはちつとも興味ないじゃない

ハル　ぼくは、姉妹一セットのきみたちが好きなんだよ

フミ　え、サンピー？

ハル　まあ、それ

フミ　これからの付き合い方を少し考えさせていただきます

ハル　冗談だよ

フミ　わかつてるわよ

ハル　東京に出ちゃうの？

フミ　それはまだわからないけど、結局お姉ちゃんにはわたしがいないとダメなもの。どうせ掃除も洗濯も料理もできないんだし、第一ああやってアホ

みたいに人のこと傷つけないと寂しくて死んじやうのよ

ハル　そうか

フミ　行きましょう。わたしお姉ちゃんの家がどこだか知らないのよ。

連れて行って。ヨシタカさんの料理ってどんなものだか楽しみ。不味かったら死ぬほど文句言ってやるんだから。それ食べながらゆっくり考えるわ。ごめん、出る前にトイレ行ってきていい？　ダメって言われても行くけどね

フミエ、退場。ハルオ、ハジメの住所と地図をプリントアウトした紙を置いて、退場。フミエ、ハルオの姿をきよろきよると探し、テーブルに残された紙を見て、それを取り、慌てて外へ出る。

終わり

上演にあたって

上演許可は左記までお問い合わせ下さい。

合同会社 Level 19

電子メール

info@level19.net

発行元

黒澤世莉 二〇二一年七月三日